動画配信の仕組みと内製化への取組みの意義

2020年 11月 19日

ITコーディネータ／一般社団法人ITC-Pro東京 理事 用松節子

一般社団法人 **ITC-Pro東京**
IT Coordinators Professional Tokyo Association

用松 節子(もちまつ せつこ)

九州（大分県）出身

11年富士通の関連会社にシステムエンジニア。

2006年ITコーディネータ取得後、独立

株式会社ITC総合研究所 取締役

一般社団法人ITC-Pro東京 理事

(放送局事業部立上げ)

趣味：プロレス観戦

日々の暮らしを番組にする住民ディレクター活動

一口に「動画」と言っても、いろいろな発信方法に分類される。

	録画（編集してUP）	オンラインイベント（そのまま配信）
一方通行	会社案内／商品紹介／研修 録画 ↓ チェック・編集 ↓ 公開／限定公開	セミナー／講演会 ウェビナー オンラインで質問は受付・回答 録画 ↓ 公開／限定公開
双方向		双方向の会話によって進行 オンラインのみ／ハイブリット型 社内のみ／公開ライブイベント セミナー型／ディスカッション型

発信プラットフォーム>

facebook

有料化・セキュリティを加味した動画配信サービス

「オンライン面白い!」「やっぱりリアルで会いたいよね!!」両方を実現するニーズの高まり

この春、従来リアル会場での開催であった各種イベントが、コロナ禍の影響で半強制的にオンライン化を余儀なくされた。そして半年が経過した今、オンラインとリアル会場参加の両方を成立させた新しい形のオンラインイベント(ハイブリット型)へのニーズが高まっている。

従来のリアルイベント

コロナ禍で急速に
皆が体感した
オンライン(Zoom)イベント

オンラインでも
十分できるじゃないか

ニューノーマル
オンライン+リアルの
ハイブリットオンラインイベント

やっぱり、リアルで
会いたいなあ

オンラインイベントの種類

動画配信の仕組み（シンプルな例2）

敷居はどんどん簡単になっている（WEBカメラ1つあれば配信可能。）

Zoom内で画面共有

ウェビナー型

※ボタンひとつでYouTubeやFacebookへのライブ配信可能

※基本、講師の顔とプレゼン資料
参加者の顔は見えない。

動画配信の仕組み（シンプルな例 2）

敷居はどんどん簡単になっている / WEBカメラ1つあれば配信可能。

※リアルタイムでのコメント

動画配信の仕組み（ハイブリット1）

リアル会場とオンライン参加者を結び双方向のやりとりを実現したい
→ どう音声と映像を切り分けてコントロールするかの課題 が出てくる。

<小人数のハイブリットの場合>

講師の映像(マイクOFF)

スピーカーフォン

会場の映像(マイクOFF)

ホストのコントロール

エンターテインメント性をどこまで求めるか

カメラは？ 音声は？

スライドの上に
プレゼンターを表示

HDMI→USB変換

ビデオキャプチャー
音声ミキサー

複数カメラ切替

バーチャルカメラをギャラリービューで表示

音声ミキサー使用

外向けの会社案内や商品紹介の動画活用はもちろん新しい動画活用へのニーズが高まっている。

■ リアル会場だけでなく遠隔地をむすんだ双方向開催

コロナ対策
経費削減
参加のしやすさ

■ テレワーク増加により益々希薄になった社内コミュニケーション

帰属意識
モチベーションUP（仲間が居る・会社はちゃんと自分を見てくれているという安心感／不平等感の払拭）

■ 情報共有

動画で共有する効果

特に進めている社内やチーム間での動画活用

楽しく！がポイント

■ チームで取り組める。

番組作りは総合格闘技。
企画から参加者への呼びかけ、当日の役割分担
皆で力を合わせて取り組める

■ 自立型人材育成

自社や自身を客観的に見て、発信する訓練
自社の商品・サービスの発信につながる。

■ 企業サービス付加価値向上

顧客（店舗）と共に新商品プロモーションライブ

→ 帰属意識・モチベーションアップ

テレワーク等で希薄になった企業・団体への帰属意識
を向上させ、モチベーションアップにつなげる。
インナーブランディング

事例) 中杉IT応援隊_番組配信

一般社団法人 ITC-Pro 東京
IT Coordinators Professional Tokyo Association

中小企業家同友会

やりたいこと

中杉IT応援隊「杉並支部 スタジオ番組LIVE」実践企画！

～ 杉並支部会員の交流強化／オンライン情報発信実験の場づくりにトライ～

背景

- コロナの影響で、これまでのように集合開催が難しくなった。
(杉並会員同士も以前のように交流できない。特に新しく入会した方に同友会の良さや価値を伝えきれない状況。)
- 今後益々オンラインでのイベントやPRの場に対するニーズが高まっている。
(会員企業においてもオンラインでの発信に慣れておくことで自社のビジネス展開に役立つ可能性が高い。)

企画

これまで、「最新のIT情報」を中心にセミナー開催してきた中杉IT応援隊ですが、背景（ニーズ）を受けて

セミナー形式ではなく、番組形式で、楽しく役に立つコンテンツを皆で考えながらオンライン発信（実験）してみませんか。

内容

- ※下記は案です。無理せず、できるところから。
- IT活用に関するお話（従来より短く）
 - 杉並探訪（がんばれ杉並のお店応援等）
 - 杉並支部会員または杉並企業紹介・同友会エピソード
 - 堀先生の「経営に役立つ法律ワンポイント講座」
 - 例会告知

**月に1回ペースで実施。
会員さんにお声掛けします。**

**例) リアルまたはZoom参加
でひとつ。
おすすめのお料理写真等**

体制

プロデューサー：堀先生／高橋支部長
司会：中山さん
ディレクター：用松／山下
技術協力：（一社）ITC-Pro東京

動画配信構成

OBS設定	
画像キャプチャ	USB ←ミックス映像
音声入力キャプチャ	USB ←ミックス音声

VR-4HDでミックスされた映像+音声
【目的】Zoom配信用

※ループバック機能を使わないと遅延のエコが発生する。

Zoom設定	
マイク	VR-4HD
スピーカー	VR-4HD
カメラ	VR-4HD

会場レイアウト／機材配置

窓側

市川／谷

カメラ②
(遠景)

無線マイク
(司会者)

5

ヘッドフォン
(講師)

カメラ①
(正面)

3

ハブ
ネットマーク
PCに4カ所
接続

6

山下親子

用松

有線マイク
(サブ司会)

嘉村

4

会場
スピーカー

会場レイアウト／機材配置

【中杉IT応援隊】ハイブリットイベント役割分担表							
No.	分類	役割	機材	(当日持込)	担当	check	備考
1	会場	会場レイアウト設定	-		全員		
2	配線	電源確保・LANケーブル設定	延長電源（2本）	用松	市川（谷サポート）		
			LANケーブル（4本）	用松			
			ハブ	堀事務所			
3		Roland VR-4HD電源	Roland VR-4HD	堀事務所	嘉村		
4		マイク・ヘッドフォン設定	無線マイク・ヘッドフォン 有線マイク	堀事務所	市川（谷サポート）		
5		①PC&プロジェクター→VR-4HD接続	①PC	山下	山下		
			プロジェクター	堀事務所			
			HDMI分配器	用松			
			HDMI→USB	用松			
6		②PC→VR-4HD接続	②PC	用松	用松		
			USB3.0接続	堀事務所			
7		③PC→VR-4HD／モバイルモニタ接続	③PC	用松	山下		
			モバイルモニタ	堀事務所			
			接続ケーブル HDMI	堀事務所			
8		④PC／⑤PC→VR-4HD接続	④PC	嘉村	嘉村&講師		
			⑤PC	山下			
			HDMI切替	用松			
9		カメラ1→VR-4HD接続	カメラ1	山下	市川		
			三脚	谷			
			マイク口HDMI→HDMI	堀事務所			
10		カメラ2→VR-4HD接続	カメラ2	用松			

会社案内の動画 1 本作って終わり。(結構高いお金出したのに、成果が感じられない)
そうならないために、考えるポイント。

目的の明確化

- ・ 誰に何を発信するか (ここが一番大事)

継続できる仕組み

- ・ 自分達で発信し続けられる仕組みを作る。

ホームページ・SNS連携

- ・ 各種発信ツールと連携し、相乗効果を高める。

自分達で（楽しく）発信し続けられる仕組みを作る。

動画の技術的な話よりも、社員みんなで動画作りや自分たちをどう表現できるかを考え、形にしていくプロセスが重要。

<動画取組みのイメージ>

発信したいこと
（発信できること）
リスト（整理表）作成

優先順位付け
チーム作り
担当の明確化

※企画・構成作りの学び

素材づくり
動画づくり

撮影はスマホで十分

初動は専門家と共に。徐々に自分達で作れるように。

＜制作したい動画の計画立案と動画制作・配信の効率化＞

対外向け

- 会社紹介／採用動画
→きちんとした印象が重要なので1本は外部に動画編集を任せる。
(但し、動画構成や素材は自分達で考え、撮影する。)
- 商品（技術）／サービス紹介／イベント等
→発信のひな型をいくつか作成（オープニング等動画部品は調達）
ホームページのテキストと組み合わせて紹介を考える。
- 公開マニュアル／使い方等・・・新たな付加価値
※業種によっては、LIVE配信。

社内向け

- 社員にむけての周知事項／社長メッセージ／マニュアル
- 社員間のコミュニケーション強化
→その場で撮って、その場で終わる「撮って出し」スタイル。

楽しく、真剣に一緒に動画活用に取り組みましょう！

ご清聴ありがとうございました。